

# 東日本大震災 災害復旧資材供給情報

財団法人 経済調査会

## 【ストレートアスファルト】

アスファルト混合物の需要は、東北地方太平洋沿岸地区や北関東地区で前年を大幅に上回る水準で推移する一方、西日本では前年を下回る水準で推移しており、全国的にはほぼ前年並みの推移となっている。

一方、ストレートアスファルトの生産、供給面では、市場規模縮小に伴う撤退に加えて仙台や千葉の生産拠点が被災したため、生産拠点、量ともに減少している。これを補うように、円高による割安感を背景に、アスファルトの輸入量が前年より大幅に増加している。また、東北地区のローリー車は、他地区からの手当てなどにより増加しているものの、供給拠点の減少で長距離輸送が必要な状況は変わっていない。

年明け以降には、第 3 次補正予算による道路関連需要の本格化も見込まれており、需要が集中した場合の製造、物流を懸念する声は依然多い。

## 【コンクリート型枠用合板】

被災地の荷揚げ港・港頭倉庫が復旧し、物流に大きな支障はなくなった。仮設・土木用木材、一般建築用木材も平常どおりの供給が可能となっている。

## 【針葉樹構造用合板】

被災した工場は、事業停止となった 2 工場を除いて稼働を再開しており、生産量も戻りつつある。長尺品については、依然として納期が 3 週間程度必要となっているが、それ以外のアイテムについては平常どおり供給が可能となっている。

## 【鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材工場の稼働状況について】

当会ホームページの「災害復旧資材の供給情報提供窓口」では、被災地への資材供給に関わる鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材各工場の稼働状況が一目で分かる地図を掲載しています。稼働状況に変更があれば、随時、情報を更新してまいりますので、併せてご覧ください。

※ 災害復旧資材の供給情報窓口 <http://www.zai-keicho.or.jp/fukkyu/index.php>

## 【ストレートアスファルト供給情報(製油所)】

### ①製油所の状況について

2011/12/8確認

製油所・工場名	所在地	稼動状況	出荷状況		備考	
			陸上出荷	海上出荷		
JX日鉱日石エネルギー	仙台製油所	宮城県	×	○	×	11月7日より油槽所機能として一部出荷を再開。生産再開は3月を目標に計画。
	鹿島製油所	茨城県	○	○	○	通常通り出荷。
	根岸製油所	神奈川県	○	○	○	通常通り出荷。
コスモ石油	千葉製油所	千葉県	×	×	×	燃料油は、一部出荷再開も、スト・アスに関しては当該製油所からの出荷不可状態が続いている。
	四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	堺製油所	大阪府	—	—	—	2010年3月より生産停止(燃料油は問題なく生産・出荷中)
	坂出製油所	香川県	○	○	○	通常通り出荷。
昭和シェル	東亜石油(株)扇町工場	神奈川県	—	—	—	2011/8/11をもって、陸上、海上出荷ともに出荷を終了。また、同日より横浜アスファルト基地から陸上出荷開始。
	昭和四日市石油(株)四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	西部石油(株)山口製油所	山口県	○	○	○	通常通り出荷。

※稼動状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼動していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」で表示。

### ②その他(今後懸念される事項等)

8月11日に昭和シェル扇町工場が出荷を終了したことで、関東地区において稼動している製油所は、JXの根岸製油所、鹿島製油所の2箇所となったが、8月11日より、昭和シェル横浜基地から出荷を開始。現在まで関東地区での供給は、安定している。

一方、東北地区太平洋岸では生産拠点・油槽所の多くが被災した。出荷を再開した油槽所や出荷再開に一定のめどがついた拠点はあがるが、依然として供給余力は大きくない。関東から輸送するケースは依然として続いており、急激な需要増への対応が困難(特に東日本)な状況は当面続く見通し。

また、関東地区・東北地区では、西日本や北海道の製油所からの海上輸送による供給を余儀なくされており、海象条件の厳しい冬期には、海上輸送が滞り油槽所の在庫が不足することも懸念されている。復興需要の本格化が控える中、アスファルトの安定供給・確保を図るうえで、これまで以上に的確な需要予測が不可欠とみられる。

## 【ストレートアスファルト供給情報】

①各県(地域)への供給状況について

2011/12/8確認

地区	都道府県名	ストレートアスファルト						
		供給動向				価格動向		
		供給可否	運搬車両	運搬経路	備考	現状	先行き	変動要因
北海道	北海道	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
東北地区	青森県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	岩手県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	宮城県	△	△	△	11月7日よりJX仙台が油槽所として出荷再開。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	秋田県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	山形県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	福島県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
関東地区	茨城県	○	△	○	6月3日鹿島石油から出荷再開。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野	○	△	○	関東地区において、スタス150/200については根岸製油所からのみの出荷となっておりタイト感有り。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
北陸地区	新潟・富山・石川・福井	○	△	○	新潟県の車両は不足状態。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
中部地区	静岡・愛知・岐阜・三重	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
近畿地区	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
中国地区	岡山・広島・山口・鳥取・島根	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
四国地区	香川・愛媛・徳島・高知	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
九州地区	福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	沖縄県	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。

### ストレートアスファルト

※供給状況:供給できる場合は「○」、供給できない場合は「×」で表示。

※運搬車両:ローリー車が充足している場合は「○」、一部、運搬車両不足により供給が遅れることがある場合は△、運搬車両の手当てが出来ないまたは、運搬ルートが確保できない場合は「×」で表示。

※運搬経路:震災前までに行っていた運搬ルートに変更が無い場合は「○」、運搬ルートに変更がある地域が一部生じている場合は「△」、運搬ルートの変更を余儀なくされている地域がほとんどの場合は「×」で表示。

### ②その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

東北地区については、製油所、油槽所の被災により運搬経路が震災前と異なる状況にあり、運搬コストが増大している地域がある。これによるコスト増分も販売価格に転嫁し、価格交渉が行われている。

供給面においては、東北地区におけるローリー車が増加したものの、引き続き、供給拠点の減少により、需要が集中した場合の製造、物流を懸念する声(特に東日本)は多い。今後需要が増加した場合の安定的な供給には、全国の長期的な需給動向の予測が不可欠であるとしている。

【アスファルト混合物供給情報】

①各県(地域)への供給状況について

2011/12/08確認

地区	都道府県	供給動向				備考	現状	先行き	変動要因
		出荷状況	燃料 (工場 設備)	燃料 (運搬 車両)	運搬 車両				
北海道	北海道	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
東北 地区	青森県	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
	岩手県	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
	宮城県	前年並 以上	○	○	△	ガレキ処理などで、運搬車両が 手当てしづらい状況が続いてお り、需要期のダンプ不足が懸念さ れている。	横ばい	強含み 横ばい	
	秋田県	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
	山形県	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
	福島県	前年並 以上	○	○	○	退避指示により稼働していない プラントが2工場ある。	横ばい	強含み 横ばい	
	関東 地区	茨城県	前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい
栃木・群馬・埼玉・千 葉・東京・神奈川・山 梨・長野		前年並 以上	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
北陸 地区	新潟・富山・石川・福 井	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
中部 地区	静岡・愛知・岐阜・三 重	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
近畿 地区	滋賀・京都・大阪・兵 庫・奈良・和歌山	大幅減	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
中国 地区	岡山・広島・山口・鳥 取・島根	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
四国 地区	香川・愛媛・徳島・高 知	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
九州 地区	福岡・佐賀・長崎・大 分・熊本・宮崎・鹿児 島	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	
	沖縄県	減少	○	○	○		横ばい	強含み 横ばい	

※出荷状況: 前年並み・前年以上に出荷がある場合(対前年95%以上)は「前年並以上」、前年より出荷が少ない場合(対前年80~95%)は「減少」、前年より出荷が少ない場合(対前年80%未満)は「大幅減」で表示。

※燃料(工場設備): 工場設備の稼働に対するエネルギーが充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※燃料(運搬車両): 主に軽油が充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※運搬車両: 混合物出荷のためのダンプトラックが充足している場合は「○」、一部、手当てしづらい日が生じている場合は「△」、十分に手当てできない状態の日が多い場合は「×」で表示。

②その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

販売側では、スト・アス価格の高止まり、プラント稼働率低下などでコスト増要因を抱えており、さらなる値上げに向け交渉を継続している。出荷面では、特に中部以西で昨年に比べ出荷量が減少している地区が目立つ。スト・アス、燃料について供給が滞るなどの問題は生じていないが、年末から年度末にかけての需要集中によるアスファルトおよびアスファルト混合物輸送のローリーやダンプの不足を懸念する声が上がっている。製造側ではこれまで以上に国・県・市町村など各発注機関と需給情報を共有し、安定供給を図りたいとしている。

## 【改質アスファルト供給情報】

①製造拠点(工場等)の状況について

2011/12/8確認

工場名		所在地	稼働状況	出荷状況	備考
日進化成	東北工場	岩手県	○	○	稼働中。スト・アス入荷に若干の難有り。
	関東工場	埼玉県	○	○	通常稼働中。
ニチレキ	青森工場	青森県	○	○	通常稼働中。
	仙台工場	宮城県	○	○	通常稼働中。
	千葉工場	千葉県	○	○	通常稼働中。
東亜道路	青森工場	青森県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	岩手工場	岩手県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	宮城工場	宮城県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	福島工場	福島県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	茨城工場	茨城県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	群馬工場	群馬県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	千葉工場	千葉県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	神奈川工場	神奈川県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	長野工場	長野県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
昭和シェル	瀝青化学 袖ヶ浦工場	千葉県	○	○	設備稼働に問題なし。
	三重プラント	三重県	○	○	設備稼働に問題なし。

※稼働状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼働していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」、燃料、原材料がなく出荷できない場合は「△」で表示。

②その他(今後懸念される事項等)

--

月刊「積算資料」掲載品(一般資材) 東日本大震災におけるメーカー等の被害状況および供給体制確認結果一覧

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	メーカー及び協会	確認日	被害状況について	供給体制について
共通資材	型枠材	210 ～ 211	コンクリート 型枠用合板	販売店	12月5日	平常通り。	平常通り。
共通資材	木材	226 ～ 229	仮設・土木用 木材	組合・問屋	12月5日	特になし。	平常通り。
共通資材	木材	230 ～ 237	一般建築用 木材	組合・問屋	12月5日		
土木資材	軽仮設資材	254(販売) 278(リース)	仮設足場	全国仮設安全事業組合 軽仮設リース業協会	12月5日	なし。	東北地区では東日本大震災復興工事向けの引き合いが増えてきたものの、現時点では供給能力に問題はない。 被災地以外の供給は平常通り。
土木資材	軽仮設資材	260 264	ブルーシート 土のう	メーカー、販売店各社	12月5日	なし。	ブルーシート、土のうとも東日本大震災後、メーカー、販売店は在庫を積み増しており、供給能力に問題はない。

月刊「積算資料」掲載品(一般資材) 東日本大震災におけるメーカー等の被害状況および供給体制確認結果一覧

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	メーカー及び協会	確認日	被害状況について	供給体制について
建築資材	内外装材	572	針葉樹 構造用合板	販売店	12月5日	被災を受けた工場は、事業停止となった2工場を除いて稼動を再開しており、生産量も平常通りに近づきつつある。	長尺品については、依然として納期が3週間程度必要であるが、それ以外のアイテムについては平常通りの供給が可能となっている。
電気設備資材	電線・ケーブル	612 ～ 613	600V架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル(CV)	販売店	12月6日	(東日本大震災) 特になし。	(東日本大震災) 平常通り。
機械設備資材	配管資材	782	硬質ポリ塩化ビニル管	メーカー各社	12月5日	(東日本大震災) 特になし。	(東日本大震災) 平常通り。